

家庭教育力の向上

楽しく、無理なく持続可能なPTA活動を目指して

江南市立藤里小学校PTA

1 はじめに

本校は江南市の北部に位置し、学区は木曽川が近くにあり、豊かな自然に恵まれている。また、藤の花で有名な曼荼羅寺や円空仏がある音楽寺といった文化財も近くにある。江南団地建設に伴い、昭和44年に開校し、児童の多くは江南団地から通学している。近年外国人住居者が多いこともあり、江南市内の小学校の中では、外国籍の児童の占める割合が高い。昭和54年には1,876名の児童が在籍する大規模校となり、校舎2棟が建設されたが、団地住民の少子高齢化や転居により、現在は児童数125名・学級数9学級（通常学級6学級、特別支援学級3学級）の小規模校となっている。本校は、小規模校のよさを生かし、学年に関わらず全職員で全校児童を見守ることができる、温かい雰囲気にも包まれた学校である。

「保護者・地域から信頼される学校」を学校経営方針として掲げており、家庭や地域と連携し、教育活動を進めている。



【藤里小学校校舎】

2 研究への取組

(1) PTA組織と活動内容

PTA役員は、会長1名（兼学校運営協議会委員）、副会長2名（兼家庭教育委員1名、兼給食センター運営委員1名）、書記1名（兼市少年センター少年補導員）の5名で組織され、そこに地区委員を加え、活動母体としている。近年、PTA会員数全体の減少や共働き家庭の増加に伴い、持続可能な組織とするために、令和3年度より地区委員の数を20名から10名に減らし、組織をスリム化した。

活動の基本的な計画を役員会で立案し、全委員会で検討している。活動内容は、「無理なく」「できるときに」「できること」として、環境整備や学習支援のボランティア、登下校の見守り等の活動を行っている。

(2) 研究のねらい

本校は、校訓「強く 正しく 明るく」とし、知・徳・体の調和のとれた、心豊かでたくましく生きる力をもつ児童を育成することを目指している。その実現のために、小規模校のよさを生かし、学年にかかわら

ず全職員で全児童を見守り、教育活動に取り組んでいる。また、学校運営協議会には、PTA会長や区長が委員として参加し、ボランティアの募集を広く地域に呼びかけることができ、小規模校ながら30名以上のボランティア登録をしていただいた。PTA活動と学校運営協議会がともに展開することにより、より多くのPTA会員や地域の方が教育活動に関わることができる。これにより、家庭・学校・地域が協働して家庭の教育力を高め、児童の健やかな成長を支えることができると考える。

3 実践活動の概要

(1) 登下校の見守り

本校区では、見守りボランティアの方々が登下校時に見守り活動に参加され、児童の交通安全の一助となっているが、PTAでも定期的に(月2回程度)、登下校指導を行っている。これは、当番制で全家庭が通学路の危険箇所立ち、子ども達の登下校を見守っている。挨拶を交わしたり、安全面について声をかけられたりすることで、児童の安全への意識を高めることができている。全家庭で見守っていただき、また、学校運営協議会委員と見守りボランティアを兼ねている方もおり、気づいたことや改善点などを教えていただけることが多く、通学路の危険箇所の把握や児童の登校の様子などを把握することにつながっており、行政や警察機関等への改善要望の一役を担っている。



【見守りボランティアによる登校指導】

(2) 環境整備ボランティア

通常は、職員やシルバー人材センターの方が環境整備を行っているが、PTAと学校運営協議会が連携して、環境整備ボランティアを募集し、除草作業を行っている。10月には、ボランティアの方だけでなく、PTA会員である保護者と子ども達で除草作業を行った。子ども達にとって、環境を整備することで、学校に愛着をもつことにつながり、保護者の方にとっては、子ども達が通う学校の環境に目を向ける良い機会となっている。



【除草作業】

(3) P T A給食試食会

授業参観日に、P T Aによる「給食試食会」をコロナ禍中は行っていなかったが、令和5年度より再開させている。再開以降は、毎年15名程度の保護者が参加している。

栄養教諭より栄養バランスの取れた献立や、食材の選定、調理方法、衛生管理、安全対策などの説明を受けることで、保護者は、給食への理解を深め、試食を通して、味付けや食材の風味、食感などを実際に体験し、献立表だけでは分からない情報を得ることができていた。保護者からは、「給食を通じて食の大切さを学べる良い機会になった」「安全に配慮して調理されているのがわかって安心した」「地産地消を心がけているのが良い」という感想が寄せられた。給食試食会を通じて食育の大切さや、学校給食に対する理解を深めることができた。



【栄養教諭による講話】

(4) 学校保健委員会

学校と家庭・地域の関係機関との連携により、年2回子ども達の健康課題を協議し、健康づくり活動を推進している。

① 第1回

保護者に向けて、養護教諭、栄養教諭及び防災担当の教員から、子ども達の健康や心身の成長に必要なことについて話をした。その後、保護者及び職員で子どもの健康について座談会形式を取り、意見交換を行った。保護者からは「他の保護者の思いや考えを聞ける機会をもつことができてよかった」との声があがり、子ども達の健康についての理解を深めることができた。また、本校のスクールカウンセラーから子どもと接する時に大切なことやスクールカウンセラーとは何かについての講話を聴いた。保護者からは、「子どもの話をもっとしっかり聞いてあげたい」「スクールカウンセラーは、保護者でも相談できると知り、利用したいと思



【第1回 学校保健委員会】

った」といった感想があり、スクールカウンセラーへの理解や家庭での子どもの接し方について考えるよい機会となった。

② 第2回

インターネットやSNSの利用が増える中、情報モラルとして、個人情報保護、著作権、人権侵害、危険回避など、情報社会で適切に活動するための基盤となる考え方や態度を身につけることが必要であり、家庭の協力が不可欠であると考えた。そこでオンライン講座を開催し、保護者への参加を呼びかけた。親子で一緒に情報モラルを学ぶことで、家庭でのルール作りや、子どもへの適切な声かけ、トラブル発生時の対応など、より具体的な対策を立てやすくなり、親子間のコミュニケーションを深める良い機会にもなった。

(5) 学習支援ボランティア

低学年の児童が集中して学習に取り組めるように支援する学習支援ボランティアをPTA及び学校運営協議会と協力して毎年募集している。学習支援ボランティアの方が教室で、子ども達に声を掛ける支援していただくことで、学習に対し、戸惑いや不安を感じる児童も安心して学習に取り組むことができている。また、学校運営協議会委員の中に江南市国際交流協会の方が会員として参加していることから、国際交流協会の方に、外国籍の児童の学級で支援していただいている。声かけの支援をしていただくことで、学習への不安が軽減されているようである。PTAと地域との連携が、子ども達に安心安全な学校生活を送る一助となり、保護者との情報交換がより多くの視点から行えることで、学校教育への関心及び理解を深めている。



【学習ボランティアによる支援】

4 おわりに

PTA活動と学校運営協議会との連携により、「楽しく、無理なく持続可能なPTA活動」が浸透してきたと思われる。また、今回の研究を通して、PTA活動が、PTA会員同士のつながりや家族の触れ合い、家族の健康や安全など、家庭教育力向上のきっかけになっていると実感することができた。また、これは地域の協力あつてのものだと改めて感じている。これからも家庭・地域・学校が連携し、家庭での教育力を高めながら子ども達の健やかな成長を支えていきたい。